かつての生活を取り戻す日まで――移動店舗「にこちゃん号」出発

念願の移動店舗「にこちゃん号」がスタート

岩手県の太平洋沿岸部は、津波による大きな被害を受けました。中小規模の仮設住宅では、買い物の場がなく不便を強いられ、家がある人も、日ごろ頼りにしていた徒歩圏の店舗が津波によって閉店したことで、日常の買い物に苦労している住民も多くいます。

そこでいわて生協は、被災地での買い物を支援する取り組みとして、ベルフ西町を母店とする移動販売事業を６月18日に開始しました。当日朝の出発式には、宮古市市民生活課の金澤恵一郎部長（宮古市 山本正徳市長代理）、いわて生協の飯塚明彦理事長、日本生協連執行役員 会員支援本部の尾辻雅昭本部長、宮古市 社会福祉協議会の飛澤和夫会長、宮古コープの香木（こうのき）みき子理事が参列し、テープカットを行いました。そして、午前９時に、移動店舗「にこちゃん号」は出発しました。この名称は、沿岸地域の組合員が検討して、決定したものです。

いわて生協が移動店舗を導入するのは初めてのことです。これまでは、毎週2000品目以上の商品を扱う共同購入事業を柱に、被災された方々の生活再建に力を尽くしてきました。しかし、高齢者を中心に、「商品を見て購入したい」「OCRの注文書になじめない」「仮設住宅が狭いので空箱を置いておくことができない」といった切実な声があがっていました。また、共同購入利用者からは「生魚や惣菜も扱ってほしい」という要望もありました。

いわて生協で初となる「にこちゃん号」1号車。

こうしたニーズを受けたいわて生協は、2011年11月から移動販売事業を検討しはじめました。コープさっぽろの移動販売車両を視察し、独自の工夫を盛り込んだ架装を設計。今年１月に車両を発注し、６月６日に納車となりました。「にこちゃん号」の購入にあたっては、日本生協連が車両代金1150万円を支援しました。

「にこちゃん号」は宮古市内に点在する仮設住宅17か所（680戸）をカバーします。コースは２つあり、月・水・金曜日の週３回訪れる「北コース」と、火・木・土曜日に回る「南コース」です。

これらのコースについて、いわて生協 常務理事 店舗事業管掌の阿部慎二さんは「社会福祉協議会の方々、自治会長さんたち、組合員さんからそれぞれ情報をいただき、コースを組み立てました。復興に向けてがんばっている方々の足は引っ張りたくないので、被災した地域商業者の仮設店舗がある場所は避けています」と述べ、地元の声を聞きつつ、復興の妨げにはならないよう設定したことを明かします。

２号車の導入も視野に入れて

ベルフ西町を出発した「にこちゃん号」は、愛宕小学校仮設団地付近の私有地に停車しました。到着を待ちわびていたかのように、多くの人がすぐに集まってきます。この場所は仮設住宅のそばであるだけでなく、近所にあった小さな商店が津波で閉店となってしまったため、近隣の住民も買い物に困っている地域です。

付近に住む80歳になる野本さん（仮名）は、「私はクルマの運転ができないので、買い物のときはタクシーを使っています。生協さんが週に３日も来てくれるとほんとうに助かります」と笑顔でした。

また、野本さんと一緒に来ていた佐々木さん（仮名）は、「仮設住宅に移動販売車は来ていますが、私たち地域住民は仮設住宅にはなかなか入って行きづらいもの。ですから、みんなが利用できる場所に来てくれるのはありがたいです」と話してくれました。いわて生協の阿部さんによると、仮設住宅の方と地域の方々との交流が生まれることを願ってこの場所を選定したそうです。

２ヵ所目は愛宕公園仮設住宅の駐車場。ここでも「買い物が不便だから助かるわ」と仮設住宅にお住まいの方々がおっしゃっていました。

「にこちゃん号」の取り扱いアイテムは約600品目。そのうち６割が生鮮品で、特長は「鮮度と惣菜の品ぞろえ」です。沿岸部に住んでいた方は魚を１匹丸ごと買う習慣があるため、真あじや真たら、どんこ、イカなど水産の丸物を用意しています。惣菜は日ごとにメニューを変えるほか、独自のカタログを用意して刺身や寿司、オードブルなどの特注にも対応します。スタート直後の２週間は通常よりも多くの商品を運行中に売り切れないように別便でフォロー。購入傾向を分析し、徐々に品ぞろえを絞っていく考えです。

販売初日は大盛況。大勢の人で賑わった。

「にこちゃん号」の周囲には、買い物に訪れた方々に試食品（しっとりみそ雁月）を勧めたり、レジに並んでいる人たちに冷たいお茶を配ったりする組合員の姿もありました。「先週は４日間にわたって『にこちゃん号』のお知らせ活動をしました。地区ごとに７～８人でチラシを配りながら全戸訪問をして回ったんですよ」と話すのはコープ理事の佐々木敏枝（としえ）さん。想像以上の人出に驚きながらも充実した表情を見せていました。出発式で挨拶した香木みき子理事も「『にこちゃん号が来たよ！』と皆さんの笑顔が広がっていくように、私たち組合員もしっかり協力していきたいと思います」と話しています。

念願かなってスタートした「にこちゃん号」。いわて生協では、まずは１号車の宮古市内での運行を軌道にのせ、今秋にも２号車の運行を検討しています。

「この２コースの状況を見ながら、いずれはけせん（大船渡市、陸前高田市）・釜石地域

でも運行させたいと考えています」と阿部さん。２号車を走らせるための募金活動もスタートしている。

また、いわて生協では、「にこちゃん号」では対応できない宮古市・山田町の仮設住宅64ヵ所（2078世帯）をカバーするために、2012年7月9日から「無料お買い物バス」を運行する予定です。宮古市内は4コース（週2～3回）、山田町は5コース（週１回）を設定。仮設住宅にお住まいの方以外も利用できるように停留所を設けます。日本生協連は1,000万円を支援します。「にこちゃん号」と「無料お買い物バス」によって、被災地を広範囲にわたってカバーできる態勢が整うことになります。

阿部さんは「移動店舗は過渡的な存在と考えています。最終の目的は『皆さんが以前の暮らしを取り戻すこと』。ですから私たちは『にこちゃん号』が役割を終える日が少しでも早くくることを願っているのです」と今後の目標を語ってくれました。